

安全な横断支援

注意喚起システム開発

中村名大教授ら

名古屋大学院工学研究科の中村英樹教授とキクテック(名古屋南区)、オリエンタルコンサルタンツは、横断歩行者の安全な横断を支援する「横断者感知式注意喚起システム」を共同開発した。

同システムは、横断歩道の両端に設置した人感センサーで歩行者を感知して、路面に埋め込んだ道路鋸を点滅発光させるとともに、LED(発光ダイオード)表示板に「横断者

注意」の文字を表示し、ドライバーに注意を喚起する。(名古屋南区)、オリエンタルコンサルタンツは、横断歩行者の安全な横断を支援する「横断者感知式注意喚起システム」を共同開発した。

13年12月から須崎市の国道5日には、名大野依記念学術交流館(名古屋千種区)で、中村教授と新美政衡キク

テック社長、野崎秀則オリエンタルコンサルタンツ社長が

左から新美社長、中村教授、野崎社長



「大きさにもよる横断歩道▽信号交差点の横断が、機材のみで3歩道(右左折時)▽左折導流00万円程度」な路の横断歩道(無信号の箇所)と説明した。

野崎社長は、試験導入でシステム後は3者で協力して、適所の効果を検証したところ、「ドライバーが歩行者を発見するタイミング

記者会見を開催。新美社長は、「常時あらゆる方向にむやみに警告するのはなく、必要に応じて、必要高まった」とのアンケート結果を得たことなどを報告した。

同システムは、▽無信号の横断歩道▽信号交差点の横断が、機材のみで3歩道(右左折時)▽左折導流00万円程度」な路の横断歩道(無信号の箇所)と説明した。

交通事故当事者の状況別死者数をみると、08年を境に、歩行中の死者数が自動車乗車中の死者数を上回っているほか、歩行中の交通事故死者の7割弱が高齢者で、横断中の事故が高い割合を占めることから、歩行者の安全横断支援が重要な課題となっている。

同システムは、▽無信号の横断歩道▽信号交差点の横断が、機材のみで3歩道(右左折時)▽左折導流00万円程度」な路の横断歩道(無信号の箇所)と説明した。